

西牧関所

この絵図は、宝永元年（1704）の西牧関所周辺の絵図（縦59cm×横84cm）です。西牧関所は藤井関所ともよばれ、現在の下仁田町東野牧に跡が残っています。文禄2年（1593）徳川氏によって設置されました。この絵図では、西が信濃国（長野県）方面、東が下仁田方面で、本宿村内に日向御門と番所、藤井村に日影御門が建てられていたことがわかります。下仁田道は、中山道の脇往還であったので、碓氷関所ほど厳重ではなく規模の小さな関所でした（口留番所）。関所守は、西牧領14ヶ村中の4人（百姓）が務め、近隣の村人が警備にあっていました。

江戸時代中期、全国では53の関所があったといわれていますが、上野国にはその約4分の1にあたる14の関所がありました。上野国は関東の北辺にあたり、江戸を守る点から重要な位置にあったことが理由にあげられます。

（参考資料）『群馬県史』通史編5
657～660頁、744～747頁、782～822頁

